



ハロー！ 神奈川教区

2007.11.4 発行

2007, No. 4

主のみ業を期待して

神奈川教区 教区長 上中栄

教区では、子どもや青年のための働きに重点を置いています。例年のファミリーキャンプや、CS教師研修会に加え、昨年から中高生会が企画され、韓国でのキャンプにも中高生を送っています。連合青年会は今年から福島雅則先生を担当牧師に迎え、新たな歩みを始めつつあります。

教会学校生徒の減少、中高生の減少、青年の減少、そして献身者の減少が問題だと言われていますが、私たちは手をこまねているわけではありません。諸教会においてはもちろんのこと、教団や教区においても、若者への伝道や信仰の継承、献身者の育成などのための努力が重ねられています。しかし、それらは一部の人の努力ではどうにもならず、全体の祈りと協力が不可欠です。

11月には連青・中高生会が、1月の宣教大会はプレ・ジャムとして開かれます。そして来夏には、ユースジャムが計画されています。主のみ業を期待しつつ、これらの働きのために、ぜひ真剣に祈り、協力・参加していただきたいと願っています。

主の平和をお祈り申し上げます。

韓国中高生キャンプ参加報告

世界ホーリネス連盟(WH連)の主催により、夏休みの期間を利用して日本と韓国の中高生同士が交流のときを持つキャンプが開催されました。神奈川教区からは2名の中高生が参加し、非常に有意義な時となりました。参加した中高生の生の声をお届けしたいと思います。

WH連中高生キャンプに参加して

鶴沼教会 上中水綺

教区から、このキャンプに参加させて頂いて、心から感謝します。

昨年の参加者から、教区の中高生会や新年聖会などで証を聞いて心をうたれ、自分もぜひ参加したいと思い参加しました。

日本と韓国の関係の歴史は教会や学校で学んで知ってはいましたが、現地で韓国の人から説明を受け、実際の拷問場面の再現などを見て、同じ日本人として自分たちがしてきた事に対して耐えられない気持ちになりました。

韓国の中高生と合同のキャンプの集会で、韓国の牧師が「日本と韓国の間には色々な歴史がありましたが、日本人の事を赦しています」とお祈りをしてくれました。心が痛んで泣いていた日本人を囲み、何百人もの韓国の同世代の子たちが「君は愛されるため生まれた」を賛美してくれました。私の正面にいた子は、涙がとまらなかつた私の手をずっと握っていてくれました。初めて会って、言葉が通じなくても、同じ様子を信じる事で1つなんだと分かりました。そして、日本から一緒に行って通訳をしてくださった丁先生が、ぎゅっと抱きしめてくれました。

この時、イエス様が十字架にかかって私たちのために死んで下さり、私たちを赦して下さった愛を強く感じました。この十字架の愛は、帰ってきてからも私の心の中心に働いています。

いつか、日本に同じ信仰を持った仲間を迎える事があつたら、自分も同じように歓迎したいと思いました。コミュニケーションをとるために語学(英語や韓国語)を学び、色々な思いを伝え合えるようになりたいです。

「イエスは、わたしたちのために、命を捨ててくださいました。そのことによって、わたしたちは愛を知りました」。

ヨハネの手紙 一 第3章16節

WH連中高生キャンプに参加して

横浜教会 淵野聖美

「いつも喜んでいなさい。絶えず祈りなさい。すべてのことについて感謝しなさい。

これが、キリスト・イエスにあって、神があなたがたに求めておられることである。」

テサロニケ人への第1の手紙 5章 16～18節

私は7月31日から8月7日まで、アジアホーリネス連盟主催WH連第2回中高生キャンプに参加してきました。

まず3.1運動殉国記念館に行きました。私はここで日本人が韓国人にとんでもないことをしたことを知りました。私たちを受け入れた下さった韓国の教会の方々の歓迎は嬉しかったのですが心苦しくなりました。

その後参加した研修キャンプWHYMでは、3日間メッセージ以外は通訳がなくグループ行動などは言葉通じずとても苦勞しました。でも、言葉が通じなくても神様が中心にいてくださることによって私たちは1つになれる、ということに賛美や祈りのときに強く感じました。最後の夜の集会では日本のため、私たちのために韓国の人たちが立ち上がって私たちを囲み「日本は韓国にとってもひどいことをたくさんしたけれど、私たちは日本人を許します。」と祈ってくれました。300人ぐらいの韓国の中高生がこの時、手を天に挙げきみは愛されるために生まれたを何度も私たちのために歌ってくれました。私の近くの子たちは「大丈夫」といって手を握ってくれました。この時私は神様の愛って本当にすばらしいんだなと思いました。

いろいろな教会にも行きました。中高生礼拝が100人ほどになるという大きな教会もありました。日本も韓国のように若いクリスチャンがもっと増えればいいなと思いました。

このキャンプを通してたくさんの恵をもらいました。そしてこれからの生活で悲しいこと、苦しいことがある時それを喜びに変えることができるように、悩みがある時まず第1に神様に祈り相談できるように、すべてのことについて感謝することができる人になりたいと決心することができました。このキャンプに導いてくださった神様に心から感謝します。

教区行事報告

教区ファミリーキャンプ報告

教区長 上中栄

8月7日～9日、成田の鈴木英夫先生を講師に迎え、東京聖書学院でファミリーキャンプが開かれました。テーマは「主イエスさまの愛に生きよう」。今年も、準備段階から講師を招いて学び、中心メッセージを確認しながらキャンプに臨みました。

小学科と乳幼児から未就学児までの幼稚科、その親の父母科、教師やワーカー、キッチンなどの奉仕者を合わせて、143名の参加でした。元幼稚科の子どもが小学生キャンパーに、

元キャンパーが中高生や学生のワーカーに、また元父母科の方が婦人会の方と一緒にキッチンスタッフや教師になるなど、キャンパーばかりでなく奉仕者の中にもリピーターが増えてきたのは嬉しいことです(鈴木先生も?)。

教師や総務、キッチンなど、多くの信徒の方の奉仕に支えられているのも、このキャンプの特徴です。その中に元大島のキャンパーもいるのは、私たちの教団のキャンプの伝統の結実?とも言えるでしょう。

来年は、ユースジャム開催の関係で、場所や日程に変更がある予定ですが、このキャンプの良い伝統がこれからも生かされていくことを願っています。

連合青年会主催スポーツ大会報告

横浜教会 新田晋也

主の平和

今回、9月9日に神奈川教区の連合青年たちが約半年ぶりに顔を合わせました。参加者は6教会12名、聖ヶ丘養護学校体育館で話題の「ビリーズ・ブートキャンプ」をしました。発端は、最近話題になっている事と各教会でも行った事があるという声があったので、連青でもやってみようということから始まりました。

内容は、短期集中型エクササイズ、一週間で痩せるといわれている運動をするので、日ごろ運動していない人にとっては結構大変な運動量になりました。今回は初級の55分を行い、最初はみんな元気があるのですが途中からそんな余裕がなくなって必死で最後までやっていました。そこで得たことは、休んでもいいから最後までやり続けることが大切なんだと体感しました。信仰もしかりかも知れませんが、もちろん後日筋肉痛になりました(笑)。

これからも色々な事をチャレンジしていきます。青年たちを発掘して交わり主と仲間の絆を深めて、各教会に根付ききっかけとなる連合青年会になればと私個人はそう思っています。

神奈川教区青年たちのために続けてお祈りください。

社会福祉部講演会報告

社会福祉部長 菊地徹

恒例の社会福祉部主催「やすらぎ講演会」を、9月30日(日)に有田モト子先生をお招きして菟園教会で開催しました。あいにくCS教師研修会と日程が重なりましたが、6教会から19名の方がご出席下さいました。講演題は、「心を病む人々への援助—教会の果たす役割を考える」でした。心を病む人々が社会に溢れ、教会もこの問題を避けて通ることのできない時代になりましたが、この観点から、有田先生は深い造詣と信仰経験を元に、教会の果たすべき役割について有意義な提言をなされました。

講演内容は、横浜いずみ教会のご協力をいただいて、DVDに収録し、先生の校閲を受けて、ご希望の教会へ配布する予定ですので、是非ご活用ください。

CS 教師研修会報告

教育部長 中西雅裕

主の御名を賛美致します。9月30日に辻堂教会にてCS教師研修会が持たれました。各教会で次世代を育てる為に労しておられる教師の方々が集まり、現状報告、今後の課題等について話し合いました。特に今回は、お互いの意見交換の時間をしっかりと取りました。その中で、自分たちの教会での問題点が整理され、良きアイデア、方向性が見いだせたのではないかと思います。

また講義に於いて「子どもたちが育っていく上での一歩先に行く模範(モデル)」の有効性が語られました。これは教区のキャンプ等で「中高生スタッフのように僕たちもなりたい!」「キャンプを運営する奉仕者たちのカップルのように、クリスチャンホームを作りたい!」と参加した子どもたちに与えられる良さ影響力です。「懂れ」は子どもたちが育つ上で必要です。どれだけ魅力的な「模範(モデル)」を教会が生みだしているか?自分たちCS教師自身がどれだけ生き生きと主に仕える歩みの模範となれているか?問われたことでもあります。

教区行事のご案内

【教区中高生会・連合青年会】 日時:11月18日(日) 15:00~ 会場:井土ヶ谷教会

来る11月18日、井土ヶ谷教会にて教区中高生会と連合青年会を開催いたします。最初に全体集会を持ち、先の記事にもありました韓国中高生キャンプのお証を伺います。その後、中高生と青年たちと別れて交流のときを持ち、レクリエーションや来年1月の教区宣教大会の話がなされます。若いクリスチャンたちの活性化のために、教区として積極的に取り組んでおりますので、各教会から中高生・青年たちを送り出していただけますよう、お願いいたします。

その他、来年にかけての主な教区行事は以下の通りです。詳細は主催部会にお問い合わせ下さい。また教区ホームページにも随時予定を掲載しておりますので、ご覧ください。

日程	内容	会場	主催部会
11/18(日)	教区中高生会	井土ヶ谷教会	教育部
11/18(日)	連合青年会例会	井土ヶ谷教会	連合青年会
2008/1/14 (月・祝)	教区新年聖会・宣教大会	横浜教会	聖会実行委員会
1/21(月)	教区運営委員会	井土ヶ谷教会	総務部
1/27(日)	教区一斉講壇交換	各教会	牧師会
1/27(日)	教会役員・信徒研修会	(未定)	教育部
2/18(月)	教区臨時総会	横浜教会	総務部

編集後記

今年4号目の教区報を皆様にお届けできますことを感謝します。今回は、この夏から秋にかけて開催された教区行事の報告を中心にお届けいたしました。そろそろ年末の足音も聞こえる頃になって参りました。これからクリスマスに向けて教会行事も多い時期だと思いますが、来年早々には新年聖会・宣教大会も開催される予定となっておりますので、今後とも教区の働きに積極的にご参加・ご協力いただけますよう、お願いいたします。

教区総務部長 伊藤聖治(茅ヶ崎教会)